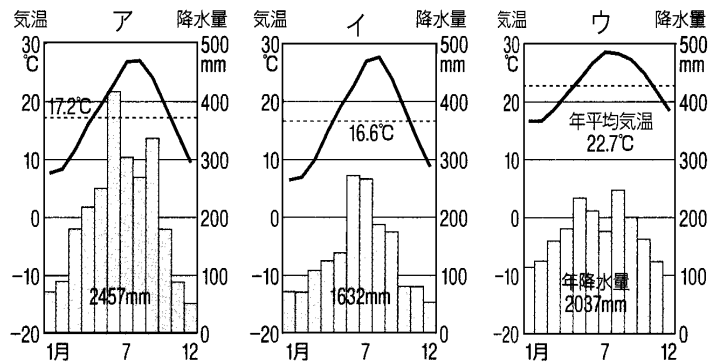
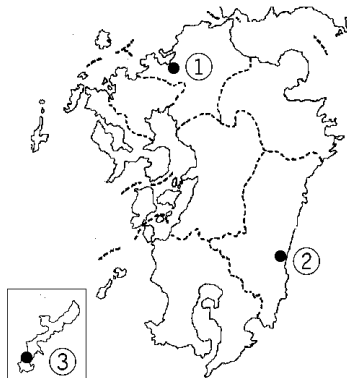


第 11 章	社会(地理)	名前:	日 付	No.02
	九州地方			

[問題 1]

地図中の①～③の都市の雨温図をア～ウからそれぞれ選べ。



[解答欄]

① イ	② ア	③ ウ
------------	------------	------------

[解説]

[那覇・福岡・宮崎の雨温図]

那覇: 亜熱帯 → 平均気温 20°C 台

福岡・宮崎: 温帯 → 平均気温 10°C 台

宮崎は福岡より年間降水量が多い

日本の大部分は温帯に属しているが、北海道は冷帯、沖縄など南西諸島は**亜熱帯**(熱帯に近い温帯)に属している。地図の①は福岡市、②は宮崎市、③は沖縄県的那覇市であるので、①と②は温帯、③は亜熱帯である。

ケッペンの気候区分によれば、最寒月の気温が 18°C 以上なら熱帯、-3°C ~ 18°C なら温帯、-3°C 未満なら冷帯か寒帯である。しかし、亜熱帯は熱帯に近い温帯であるので、この区分法は使えない。

そこで、便宜上の区分法として、年間の平均気温に着目する。すなわち、**平均気温が 20°C 台なら南西諸島の亜熱帯の気候、10°C 台なら温帯という基準で判断する。**

ア～ウの雨温図の平均気温に注目すると、平均気温が 10°C 台のアとイは温帯で、平均気温が 20°C 台のウは亜熱帯であると判断できる。したがって、ウは③的那覇市の雨温図であることがわかる。

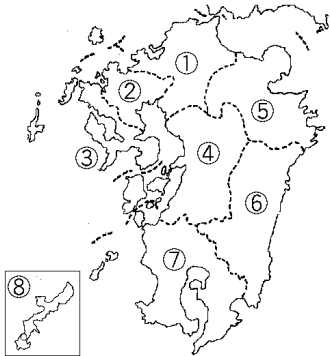
アとイは①の福岡か②の宮崎であるが、**宮崎は台風などの影響で年間の降水量が多い。**

したがって、アは②の宮崎の雨温図であると判断できる。

[問題 2]

次の各問いに答えよ。

- (1) 地図中の①～⑧の県名を書け。
 (2) ①～⑧の中で、県名と県庁所在都市名が異なる県が 1 つある。この県の番号と、県庁所在都市名を書け。



[解答欄]

(1)①福岡県	②佐賀県	③長崎県	④熊本県	⑤大分県
⑥宮崎県	⑦鹿児島県	⑧沖縄県	(2) ⑧、那覇市	

[問題 3]

九州は、かつて 9 つの「国」からなっていたためにその名がついたとされているが、現在はいくつの県からなっているか。数字を答えよ。ただし、沖縄県は除く。

[解答欄]

7

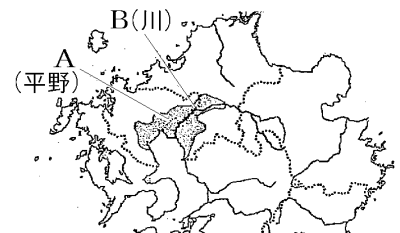
[問題 4]

次の各問いに答えよ。

- (1) 地図中の A の平野の名前、B の川の名前を答えよ。
 (2) 地図中の B の川の水を利用した、A の平野でさかんな農業は何か。
 次の[]から選べ。

[稲作 畑作 畜産]

- (3) (2)の収穫後に異なる作物を栽培する農業を何というか。



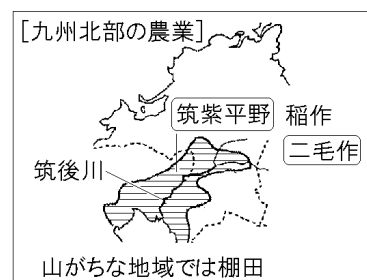
[解答欄]

(1)A 筑紫平野	B 筑後川	(2) 稲作	(3) 二毛作
-----------	-------	--------	---------

[解説]

九州の農業は、南北のちがいが目立つ。比較的広い平野がある北部では稲作がさかんである。筑後川流域に広がる筑紫平野はこの地域を代表する稲作地帯になっている。ここでは、初夏から秋にかけての時期に稲作を行い、米の収穫後には、冬でも温暖な気候を生かして、小麦など米とは異なった作物を栽培する二毛作が昔から行われている。近年では、ビニールハウスを利用したいちごやトマトなどの野菜の栽培もさかんになっている。

山がちな地域では、棚田をつくって稲作を行っているところもある。



[問題 5]

次の各問いに答えよ。

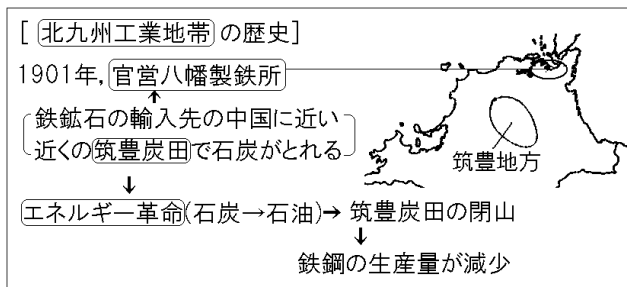
- (1) 地図中 X の工業地帯(地域)を何というか。
- (2) (1)は、1901 年に建設された官営の製鉄所がもとになっている。
この製鉄所名を書け。
- (3) (2)の製鉄所の立地条件となった①炭田名、②当時の鉄鉱石の輸入先を書け。



[解答欄]

(1) 北九州工業地帯(北九州工業地域)	(2) 官営八幡製鉄所	(3)①筑豊炭田
②中国		

[解説]



北九州工業地帯(現在では北九州工業地域ともよばれている)のはじまりは、日清戦争の賠償金を使って、1901 年に洞海湾の南側 (現在の北九州市)に、官営八幡製鉄所がつくられたことである。

ここに製鉄所が設けられたのは、近くに筑豊地方の石炭(筑豊炭田)の産地があったことと、当時、鉄鉱石の輸入先であった中国に近かったことによる。

しかし、1960 年代以降、エネルギー源が石炭から石油にかわるエネルギー革命が進み、筑豊炭田などが閉山すると、それまでの有利な立地条件はなくなり、この地域での鉄鋼の生産量が大幅に減った。

[問題 6]

次の資料をみて、各問いに答えよ。

福岡県の工業の変化

	機械 8.4		食料品	
1960 年 0.6 兆円	鉄鋼 37.1%	化学 20.4	その他 13.5	20.6
2009 年 7.8 兆円	10.6	40.6	10.6	20.0
			18.2	

- (1) 古くから工業が発達した、九州北部の工業地帯(地域)を何というか。
 (2) (1)の工業はどのように変化したか。グラフをみて簡潔に説明せよ。

[解答欄]

(1) 北九州工業地帯(北九州工業地域)

(2) 鉄鋼業中心から機械工業中心へと変化した。

[解説]

[工業の変化]
 鉄鋼業の割合低下
 ↓
 機械工業:自動車, IC



1960年には、鉄鋼の占める割合が大きかったが、現在では鉄鋼の割合は大幅に低下して機械の割合が増加した。
 新しい機械工業としては、苅田町や若宮市(旧 宮田町)の大規模な自動車工業、空港や高速道路ぞいに作られたICなどの電子部品工業がある。

[問題 7]

九州地方には、IC 工場が多く分布している。どんなところに立地しているか。立地条件を書け。

[解答欄]

高速道路や空港の近くに立地している。